

## 日本音楽知覚認知学会平成 22 年度第 1 回理事会議事録

日時：平成 22 年 5 月 29 日（土）11：30～13：00

開催場所：公立はこだて未来大学 493 講義室

出席者：大浦容子、中島祥好、安達真由美、荒川恵子、上田和夫、大串健吾、小川容子、桑野園子、佐藤正之、谷口高士、津崎実、中田隆行、難波精一郎、羽藤律、森下修次、三浦雅展

### 議題

#### 1. 会員状況報告

三浦雅展学会事務局担当常任理事より、平成 22 年 3 月 31 日現在の会員総数が 284 名（名誉会員 2 名（うち 1 名は理事会顧問も兼ねる）、会友 1 名、顧問 1 名、正会員 251 名、学生会員 30 名）であり、昨年同時期に比べ 37 名減であることが報告された。

追記；三浦雅展学会事務局担当常任理事より、平成 22 年 3 月 31 日現在の会員総数は 282 名（名誉会員 2 名（うち 1 名は理事会顧問も兼ねる）、正会員 250 名、学生会員 30 名）と報告内容訂正の連絡がありました（2010 年 6 月 9 日）。なお、大山正先生、千住真理子さん、海外編集委員の Hartmann 先生は会員ではないのですが、学会誌を送ることになっています。

#### 2. 平成 21 年度事業報告

##### (1) 春季研究発表会及び秋季研究発表会

谷口高士研究会担当常任理事から、平成 21 年度の春季、秋季両研究発表会の開催日と開催校について、以下のとおり報告がなされた。

春季研究発表会：開催日；平成 21 年 6 月 6 日（土）～7 日（日）

開催学校；桐朋学園芸術短期大学

世話役；羽藤律先生

秋季研究発表会：開催日；平成 21 年 11 月 7 日～8 日

開催校；龍谷大学瀬田キャンパス

世話役；三浦雅展先生

##### (2) 学会賞授与

小川容子学会賞担当常任理事から、平成 21 年度秋季研究発表会における研究選奨選考の結果、2 名の受賞者が選定されたことが報告された。なお選定の経緯と理由は、理事メールを通してすでに理事会に報告済みである。選定委員として、津崎実（委員長）、大串健吾、小川容子、菅千索の各先生が委嘱されていた。

選定件数；2 件

発表者；平野 剛

題目；熟達化に伴うフレンチホルン演奏の表情筋活動変化

発表者；蓮尾 絵美

題目；音の時間構造がリズム知覚に及ぼす影響

##### (3) 学会誌発行

津崎実副編集委員長から、第 13 巻第 1 号・第 2 号合併号(2007 年)が平成 21 年 10 月に発刊されたことが報告された。

##### (4) 理事の担当の変更

研究会担当が山崎晃男理事から谷口高士理事に変更され、これにあわせて、常任理事が山崎理事から谷口理事に変更になったことが報告された。

#### 3. 平成 21 年度決算報告

三浦雅展学会事務局担当常任理事より平成 21 年度の決算報告がなされ、了承された。

#### 4. 平成 21 年度監査報告

三浦雅展学会事務局担当常任理事より、平成 21 年度決算報告について、仁平義明監事から監査を受け、上記決算に間違いのないと認められたことが報告された。

#### 5. 平成 22 年度事業計画

##### (1) 研究発表会

研究会担当の谷口高士常任理事から、以下の報告がなされた。

春季研究発表会：公立はこだて未来大学(世話役；中田隆行先生)で5月29日(土)、30日(日)に開催中。

秋季研究発表会：三重大学(世話役、佐藤正之先生)で10月2日(土)、3日(日)に開催予定。

## (2) 学会誌発行

副編集長の津崎実理事より、第14巻第1号・第2号合併号(2008年)は今年の7月初旬に発刊予定であることが報告された。第15巻第1号・第2号合併号(2009年)として原著論文1篇と解説1篇が準備中であるが、それ以降については原稿のストックがない状態であり、本来の時期に号数が追いつくのは難しいとの予想が示された。

その後、本来の時期と号数を一致させるにはどうするかが討論された。現在発刊準備が進んでいる第14巻を第14巻・第15巻合併号(2008年、2009年合併号)とし、第14巻に掲載予定の2編と整備された会則・細則を掲載すること、第16巻(2010年)には現在第15巻用として準備されている論文を掲載するとする案が協議され、両巻合併という選択肢も考慮の範囲に含めることが了承された。

論文数の不足に対応する方法について討論し、下記の方針を了承した。

1. 研究発表会での報告のなかで新奇性の高いものについて letter(速報)として報告を載せることが検討された。速報を設ける場合は執筆規定・査読手続きを定めることが必要なので、正副編集長を中心に常任理事会で検討することとした。

2. 各理事も積極的に論文獲得に向けて行動することとし、例えば研究会の発表の中で完成度が高く、比較的原著論文にまとりやすいと思われる報告については、理事からも発表者に投稿を働きかけることとした。

3. 解説記事、技術報告など適切なテーマについて理事が提案すると共に、執筆候補者に執筆の可能性について働きかけることとした。

なお津崎副委員長から難波精一郎先生が解説1篇の執筆を引き受けたむね報告があった。また仁平義明先生に編集長から解説執筆をお願いすることが提案された。

## 5. 平成22年度予算

三浦雅展学会事務局担当常任理事より平成22年度予算案が提案され承認された。

## 7. 会費未納者の扱いについて

三浦雅展学会事務局担当常任理事より兵背22年3月末日現在回避が3年未納になっている会員名(18名)、会費2年未納(19名)ならびに会費1年未納(33名)の人数が報告された。会費の振込用紙に振り込みあて先名・口座番号を印刷して払い込みやすくしたことが効果を挙げたとのこと。

## 8. 春季研究大会研究選奨選考委員の委嘱について

小川容子学会賞担当常任理事から、2010年春季研究発表会についても4名の研究選奨選考委員を委嘱したことが報告された。併せて、研究選奨選考委員の委嘱にあたっては対象を理事に限定せず、会員の中から適任と判断される先生に委嘱したいとの提案がなされ、了承された。

## 9. アーカイブWG報告

WGチーフの桑野園子理事より、作業の進捗状況について、検討すべき内容として掲げた12項目のうち「理事会関係歴史」と「ICMPC10(2008年、札幌)」、「選奨関係」、「APSCOM」、「音楽知覚認知研究会時代」についてはおおそ完成したこと、そのほかの項目についても準備が進んでいることの報告があった。なお、学会誌ならびに研究発表会資料をホームページで公開するかどうかについては、理事会で検討してほしいこと、予定している項目についての作業は来年5月までに完了することを目標にしていることも併せて報告された。

## 10. 著作権WG報告

WGチーフの中島祥好常任理事より、著作権に関することで困っている事柄・判断に迷う事柄をまとめ、それに対する対応編を作る作業を進めていることが報告された。WGで検討中の資料が配布され、追加・補足すべき事柄があったらWGに連絡してほしいとの依頼があった。

## 11. その他

- ・ 会則担当理事の委嘱について

谷口理事が会則担当から研究会担当に替わられたので、会則担当は星野悦子先生(副会長・常任理事)おひとりとなったが、当分の間、星野理事お一人で会則担当を引き受けていただくことになった。

- ・ 「監事」についての会則規定について

会則に規定がないので、至急作成することとした。

- ・ 会則並びに細則の整備について

学会賞細則2（論文賞の決定方法（平成21年度第2回理事会決定））と学会賞細則3（特別賞並びに名誉会員の決定方法（平成21年度第1回理事会決定））については、理事会で決定されて入るものの具体的には作業が進んでいなかったため、至急作業に取りかかることとした。なお学会賞細則3については、検討を担当し経緯をご存知の谷口理事からも、作業に加わっていただくこととなった

- ・ 会則の微細な改定について

会則担当理事の星野悦子先生から、会則の表現等について微細な改訂が必要との提案があったことを大浦より報告。改訂について検討する事となった。

- ・ APSCOM について

APSCOM 担当理事の中島祥好先生（副会長・常任理事）より、現状報告があった。来年度北京で APSCOM 会合が開催されることが決まっているが、現地での準備状況が確認できず、APSCOM としての支援体制も定まっていないので、今のままでは今後の協調体制に懸念が生ずること、さらに、APSCOM 会長の座がどの国にあるかもあいまいになっていたことが報告された。これまでの慣例に従えば日本に会長の座があるはずなので、最近、中島理事が APSCOM 委員会にメールを回して会長として名乗りを上げ、異論のなかったことが報告された。また、これから中島理事が会長として北京と連絡を取り、今後の方針を立てるとの提案がなされた。以上の路線について、理事会で承認がなされるとともに、APSCOM 開催に向けて支援することが決議された。